

オーストラリアの生食用ブドウ

米国農務省海外農業局 2023年4月28日

要約

オーストラリアの生食用ブドウ部門は過去10年間で大きな進歩を遂げ、出荷量は30%以上増加し、輸出量は50%増加した。コロナ禍による制約のため2年間にわたり生産と輸出が減少したが、コロナ禍前及びコロナ禍の最中のブドウ園への投資により、業界は上昇傾向を継続する道を歩んでいる。輸出はエジプトや欧州連合と肩を並べ、アジアでは他の南半球の輸出国と効果的に競争しており、オーストラリアは世界的に重要なプレーヤーとなった。

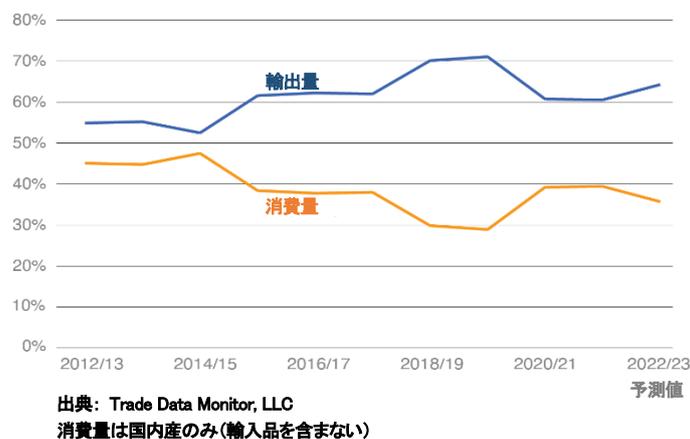
輸出が出荷量の伸びを主導



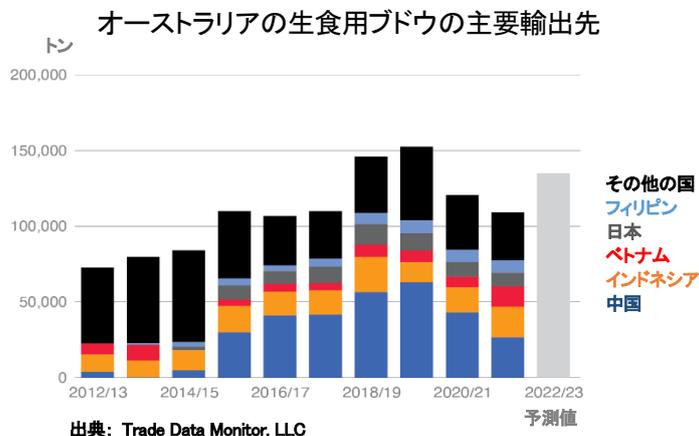
輸出主導の生産

オーストラリアの生食用ブドウは、8つの州と準州のうち6つで栽培されており、生産はビクトリア州とニューサウスウェールズ州に集中している。ビクトリア州のサンレイシア地域とマレーバレー地域は生産の70%以上を占め、ニューサウスウェールズ州の2つのリベリーナ地域(同名の別地域)は合わせて10%を占めている。いずれの地域も温帯性の気候が特徴で、冬は穏やかだが、成長を刺激し発芽を促進するのに十分なだけの低温時間がある。年間降水量は少なく、ほとんどの雨が収穫期間以外に降り、水はけの良い砂壤土であるため、ブドウ園は灌漑水に大きく依存している。オーストラリアの収穫期はノーザンテリトリーで10月に始まるが、出荷の大部分は南部のビクトリア州とニューサウスウェールズ州で行われ、そこでの出荷は5月に終了する。

出荷量に占める輸出量と消費量の割合



オーストラリアは過去5年間に平均約20万トンを出荷して世界の生産国の中で13位にランクされており、南半球の生産国の中では5位である(2021/22年度の推定に基づく)。世界の生産量に占めるオーストラリアのシェアは1%で横ばいだが、南半球では6%を占める。また、世界の輸出量に占めるオーストラリアのシェアは3%でほぼ横ばいであるが、南半球諸国の中では7%であり、2019/20年度には10%に達した。



南半球の他の主要な生食用ブドウ生産国と同様に、オーストラリアのブドウ生産は極めて輸出主導である。国産品の国内消費量は、2012/13年度以降平均7万トン未満であり、これは出荷量の45%から2022/23年度には36%に縮小すると予測されている。出荷量に占める国内消費量のシェアが減少した一方、輸出のシェアは2022/23年度の予測では55%から64%に上昇した。過去5年間の輸出量は平均約13万トンで、エジプト及び欧州連合の水準に近い。オーストラリアの輸出の伸びは主に中国によって牽引されており、中国向けの輸出量は2015/16年度に3万トンで単一国への輸出量の新記録を樹立し、中国はトップ市場となった。中国オーストラリア自由貿易協定の一環として、オーストラリア産生食用ブドウに対する中国の関税は2019年にゼロになり、中国への輸出量は6万3千トンのピークに達した。オーストラリアの総輸出量も過去最高の15万3千トンに達し、10年足らずで2倍以上になった。

しかし、2019/20年度のピークの後、天候やコロナ禍の影響を受けたため、収量は低下し、輸出量は30%近く減少した。平均以上の降雨量は作物の品質に影響を与えた。コロナ禍はまた労働力不足につながり、迅速な収穫を妨げ、それによって生産者が雨の影響を軽減する対応力が低下した。その結果として量が減少した荷は、運賃の上昇とコンテナ不足の影響を受けた。これらの課題にもかかわらず、輸出量は10万トン超を維持しており、ほとんどの主要市場で成長を示した。中国への輸出量は2019/20年度以降60%近く減少したが、2021/22年度には2万7千トンで引き続きオーストラリアの最大の輸出先であり、インドネシア(2017/18年度から26%増の2万トン)、ベトナム(2017/18年度のほぼ3倍の1万4千トン)がそれに続いた。中国は特にベトナムとタイへの生食用ブドウの主要輸出国であるが、オーストラリアの出荷は中国とは季節が反対で、南半球の輸出大国であるチリ及びペルーと競合している。生産量が大幅に減少したにもかかわらず、オーストラリアのアジア市場向け出荷量は、しばしばチリやペルーの出荷量を上回る。これはオーストラリアがアジア市場に近いことに支えられており、輸送時間の短さや果実の品質低下リスクの低さなどの利点がある。

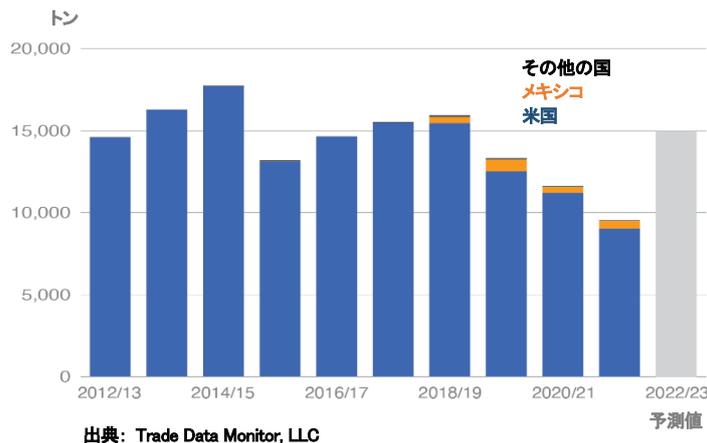
前進する産業

強い輸出需要を支えるため、ワイン用のブドウ園を生食用ブドウに転換するなどして、生食用ブドウの栽培面積が拡大している。出荷量は現在、緑色品種のメニンディー及びトンプソンと赤ブドウ品種のクリムゾン²が大部分を占めているが、新植面積の大部分は権利関係のある新しい種なし品種が占めている³。アジア市場は2021/22年度のオーストラリアの輸出量の95%近くを占めており、消費者の好みはオーストラリアの生産者の品種選択に大きな影響を与えている。種のあるレッドグローブは中国に輸出される主要なブドウ品種であったが、アジア全体として消費者は次第に種なし品種に目を向けている。種なし品種には、黒ブドウを含む様々な食味の選択肢があり、世界的に幅広い関心を集めている。業界の推定によると、コロナ禍以前は生食用ブドウの栽培面積は年20%の割合で増加していた。コロナ禍が続いている間、収穫労働力の不足によ

り、栽培面積の増加率は鈍化した。

オーストラリアの生食用ブドウ産業は、コミュニケーションと情報共有のための協調的な取り組みを通じて生産者を支援し、生産を改善するための強力な普及事業を構築した。この事業を通じた研究開発活動、最良の管理手法と技術に関するワークショップや農場見学会の開催、生産者の問い合わせへの対応などのサービスを提供することにより、生産者は新しい栽培手法を採用することができる⁴。この事業は、オーストラリア政府が集めた生食用ブドウ賦課金基金から資金提供され、その資金は、業界と協議して研究開発プロジェクトに資金を投入するホートイノベーション(Hort Innovation)^{*}に渡される。

オーストラリアの生食用ブドウ輸入はコロナ禍前の水準に回復する予測



他の南半球の生産国とは異なり、オーストラリアはかなりの量の生食用ブドウを輸入している。国内供給量は輸入により1万~2万トン増強され、これらはほぼ全量がオーストラリアのオフシーズンとなる数か月の間に米国から輸入される。一方、ホートイノベーションは、国内の購入量を増やすため、小売店内やソーシャルメディアからラジオ広告に至るまでの販売促進活動により、全国的な国内キャンペーンも実施している。米国产ブドウの輸入は、オーストラリアの店舗に国産品が並ぶ前に消費者の需要を高める働きがある一方、この販促キャンペーンは結果的に輸入を増やし、消費者の需要を高め、オフシーズン中の購入を増やしている可能性がある。オーストラリアは2021/22年度に3,400万ドル(1万トン)の価値がある米国にとって6番目に大きな輸出市場であった。

今後の見通し

収穫労働力の不足は、2022/23年度にも出荷量と輸出量に影響を与えると予想される。しかし、輸送の体制が改善し、新植された園地からの出荷開始が続くため、出荷量は21万トン、輸出量は13万5千トンに達し、コロナ禍以前の水準に回復するものと米国農務省(USDA)は現段階で予想している。ビクトリア州では2022年12月に洪水の被害があったが、これが2022/23年度の作柄と長期的な生産にどのように影響するかは様子を見る必要があり、米国農務省の予測は2023年6月13日に更新される。しかし、新植園地からの出荷が始まり成園化が進むにつれて、今後数年間で生産量と輸出量をさらに高い水準に押し上げることが予想される。

1 オーストラリアの販売年度は、10月から9月である。

2 ホートイノベーション 「オーストラリア園芸統計ハンドブック2020/21」

3 FAS/キャンベラ事務所、GAINレポートAS2022-0022 「生鮮落葉果実年次報告書」、2022年9月21日

4 ホートイノベーション 生食用ブドウ基金年次報告書2021/22

* ホートイノベーションは、「オーストラリアの園芸産業のための生産者所有の非営利研究開発法人」である。
(<https://www.horticulture.com.au/hort-innovation/the-company/>)

市場シェアと世界の貿易情報は、特に明記されていない限り Trade Data Monitor, LLC からのものである。